

読書をしなくてはいけない確固たる理由とは

少し古いですが、以下、朝日新聞2017年3月8日付掲載の投書を、まずはお読みください。

読書はしないといけないの？ (大学生21歳・男性)

「大学生の読書時間『0分』が5割に」(2月24日朝刊)という記事に、懸念や疑問の声が上がっている。もちろん、読書をする理由として、教養をつけ、新しい価値観に触れるためというのはあり得るだろう。しかし、だからといって本を読まないのは良くないと言えるのだろうか。

私は、高校生の時まで読書は全くしなかった。それで困ったことはない。強いて言うなら文字を追うスピードが遅く、大学受験で苦労したぐらいだ。

大学では教育学部ということもあり、教育や社会一般に関する書籍を幅広く読むようになった。だが、読書が生きる上での糧になると感じたことはない。役に立つかもしれないが、読まなくても生きていく上で問題はないのではないかというのが本音である。読書よりもアルバイトや勉強の方が必要と感じられる。

読書は楽器やスポーツと同じように趣味の範囲であり、読んでも読まなくても構わないのではないかと。なぜ問題視されるのか。もし、読書をしなくてはいけない確固たる理由があるならば教えていただきたい。

とんがっていますねー。数年前、苦労の大切さを説こうとする私に、「石の上にも3年」とか、「苦労は買ってでもせよ」なんて古いよ！ダラダラと修行させるぐらいだったら、即戦力になりたいと願っている本人の望みどおり、短期間で効率的にノウハウを伝授してあげるべきだよ。」と迫ってきた息子を思い出します。

本題に戻します。前述の大学生の投書に対して、「読書は試験に役に立たない。役に立つかわからない効率の悪いものに時間を削ることはない。」等の多くの共感の声が寄せられたそうです。さあ、皆さんはどう思われますか。

今度はベストアンサーとしてお薦めの一節を以下に紹介します。伊藤忠商事の元社長、中国特命全権大使の経歴を持つ経済界きっての読書家「丹羽宇一郎氏」の著書『死ぬほど読書』からの引用です。



【放課後子ども教室 竹細工づくり】

「本なんて役に立たないから、読む必要はない」そんな考え方をする人が少なからず出てきたということは、小さい頃から遊びも勉強も習い事も親や周りから、よかれと思って与えられた環境で育った人が多いことを表しているのだと思います。

与えられたものの中でばかり生きてると、「自分の頭で考える」ということができなくなります。自立した思考ができなから、たまたま与えられた狭い世界の中だけで解決してしまう。

読書なんてしなくていいという人たちの背景に、私はそんなことを感じます。

周りから与えられた狭い世界の中で、何に対してもすぐに実利的な結果を求める。そんな生き方は、いうまでもなく精神的に不自由です。それが不自由であることを、本人は露ほども感じていないと思うと、身震いするほど、自由の世界へと手を差し伸べたくります。

人は自由という価値観を求めて、長い間、闘ってきました。努力し、工夫し、発明して進歩してきた果てに、今の自由な社会はあります。

それは人類史上、かつてないほど自由度の高い環境といっているかもしれません。

しかし「何でもあり」の世界は一見自由なようですが、自分の軸がなければ、実はとても不自由です。それは前へ進むための羅針盤や地図がないのと同じだからです。それらがなければ、限られた狭い中でしか動けません。

では、自分の軸を持つにはどうすればいいか？

それには本当の「知」を鍛えるしかありません。読書はそんな力を、この上なくもたらしてくれるはずで。すなわち、読書はあなたをまがいものではない、真に自由な世界へとみちびいてくれるものなのです。

数年前は、親の価値観を全否定し、口を開けば論破しようとしてきた息子も、様々な苦労や経験を積んだせいか、変わってきました。仕送りはあるものの、与えてもらえない暮らしを数年続けてきたせいでしょうか。親の話に耳を傾けたり、納得したりする姿が多くなり、電話もYesNoだけでなく、自らのことを詳しく話すようになりました。

「時間はあるやろ、教員免許、取ってみる？」の問いには、ふれずに全否定していますが。

知恵や方法を学ぶ

義務教育では、「学習指導要領」という規則によって学習内容が決められており、教員は検定済の教科書を使って、それらを指導しなければなりません。ガチガチに定められているから、学校や教員は創意工夫をする余地なんてないんじゃないの？と思われるかもしれませんが、全く逆で、学ぶ意欲を高めるにはどうしたらよいか、一人一人に、その能力に応じて、確実に習得させるにはどうしたらよいかなど、一筋縄でいかない事を試行錯誤しながら取り組んでいるのが教員の日常です。

子ども達には、大人になって、難題(悩み)や苦労が絶えない人生を歩む中、(もう無理！)と狭い視野で自暴自棄になることだけは避けさせたい。一これダメなら、この方法はどうかろう、これもダメだったけれど、あきらめるもんかーそんなふれな(本質や目標を大切に)した生き方を教えていきたいと願っています。(次号へ続く)



【親子DIY教室】